



## 検討会プログラム（敬称略）

- 13:00－13:10 趣旨説明および参加者の自己紹介  
芳村圭（東京大学生産技術研究所）
- 13:10－13:35 極域気候モデル NHM-SMAP  
庭野匡思（気象庁気象研究所）
- 13:35－14:00 接地層における乱流の空間構造を見る  
渡辺力（北海道大学低温科学研究所）
- 14:00－14:25 天気予報モデルにおける粗度境界層パラメタリゼーションの開発  
草開浩（気象庁数値予報課）
- 14:25－14:50 A study of litter effect by control experiment and modeling with CLM  
馬文超（筑波大学アイソトープ環境動態研究センター）
- 14:50－15:10 ILS 開発の進捗について  
新田友子（東京大学生産技術研究所）
- 15:10－15:30 ソフトウェアとしての陸域モデル  
荒川隆（高度情報科学技術研究機構）
- 15:30－16:30 ポスターコアタイム  
（ポスター発表の詳細は 3P にあります）
- 16:30－16:50 MATSIRO への衛星シミュレータの適用  
清木達也（海洋研究開発機構）
- 16:50－17:10 全球高解像度水文地形データの整備状況について  
山崎大（東京大学生産技術研究所）
- 17:10－17:30 水資源・作物・土地利用を考慮した地球システム統合モデルによる気候リスク評価  
横島徳太（国立環境研究所）
- 17:30－17:50 河川からの栄養塩流入が全球の海洋生態系、炭素循環に与える影響：MIROC-ESM(CMIP6 ver)を用いた初期解析  
山本彬友（海洋研究開発機構）

17:50-18:10 地球システムモデルの陸域：CMIP6 とその先  
羽島知洋（海洋研究開発機構）

18:10-18:20 総合討論

18:30- 懇談会（ポスターセッション会場と同じ 13 号教室で行います。ケータリングで食事を用意しています。アルコール代 1500 円を徴収させていただきます）

**ポスターセッション**（縦方向 A0 サイズでお願いします）

1. 動的全球植生モデル SEIB-DGVM の出力可視化

佐藤永（海洋研究開発機構）

2. Quantify the range of projections of future changes in glacier mass caused by differences among observed past climate datasets

渡辺恵（東京工業大学）

3. Glacier runoff evolution in Central Europe: demonstration of an energy balance-based glacier model with debris effect

佐々木織江（東京工業大学）

4. Estimating River Bathymetry for CaMa-Flood using Data Assimilation Techniques

Menaka Revel（東京工業大学）

5. 全球陸面過程モデル MATSIRO を用いた雪氷微生物繁殖の季節および地域特性

大沼友貴彦（東京大学生産技術研究所）

6. 全球への適用を目指した地下水三次元流動モデルの開発状況

三浦陽介（東京大学生産技術研究所）

7. 汎用カプラによる陸面・河川モデルと水資源モデルの結合

竹島滉（東京大学生産技術研究所）

8. 水蒸気同位体比データ同化による気象予測改善

多田真嵩（東京大学生産技術研究所）

9. 千年紀気候復元に向けた気候プロキシデータ同化

庄司悟（東京大学生産技術研究所）

10. 日別気象データを用いて推定された主要作物の全球栽培暦  
飯泉仁之直（農業環境変動研究センター）

協賛

- ・文部科学省 統合的気候モデル高度化研究プログラム
- ・文部科学省 北極域研究推進プロジェクト
- ・科学研究費補助金 特別推進研究 グローバル水文学の新展開
- ・環境省環境研究総合推進費 S-12
- ・戦略的イノベーション創造プログラム 国家レジリエンス（防災・減災）の強化